

- 目的 今後の計画推進および関連機関・団体との連携に向けて、各所属での取組状況や課題を分野ごとに共有する。
- 日時 令和6年9月25日(水)
- 参加者 関係団体・健康づくり認定サポーター、関係課 計52名
- 内容
 - (1)第2次ながおかヘルシープラン21進捗状況調査結果について
 - (2)第3次ながおかヘルシープラン21概要について
 - (3)意見交換
 - ①各所属での取組を共有
 - ②今後の進捗確認および評価について

【世代】

- 青壮年期
- 働き盛り世代
- 60代後半～70代

○ ころの相談会利用者の7割が**青壮年期**であることに危機感を感じた。（商工会議所）
 ○ **壮年期**の栄養管理状態が稀薄なため**企業団体**への啓蒙も含め、具体策を打ち出し行き届いた栄養指導が必要である。（栄養士会長岡支部）
 ○ **男性**や**働き世代**の講座への参加が殆どなく健康な食について伝えられない。（食生活改善推進委員協議会）
 ○ **60代後半**、**70代**の新規会員を増やし活動を継続することが課題。孤独で日々テレビと向かい合っている**高齢者**も多い。（老人クラブ連合会）

【場】

- 学校
- 企業団体、運輸業

○ **学校**で孤食であっても栄養のバランス、食事のマナー、よく噛んでおいしく食べることなどの食育を子どもたちへしっかりとしていきたい。（学校保健会長岡支部）
 ○ **働く世代**への働きかけとして**運輸業**を対象に糖尿病対策をテーマに事業展開。実態調査結果を分析中。（長岡地域振興局健康福祉環境部地域保健課）

【つながる】

- 他部署、他団体との協働
- 食＋運動、食＋企業、学校＋農林水産業者等とのコラボ
- 子育て世代と高齢者

○ ヘルシープラン21策定時と比較すると**人口減・働く世代の減・高齢者の増**が顕著。（長岡商工会議所）
 ○ 効果的な事業推進には各地域のコミュニティ、スポーツ推進委員等との連携が大事。もっと全体が**連携した方が無駄が少なくなる**と思う。（スポーツ協会）
 ○ 自分にメリットがあるか楽しいかがイベント参加の判断基準。**各団体が横につながり強みを活かして有益で楽しい企画**が必要。（スポーツ振興課）
 ○ 各団体が単独で取り組むだけでなく**いくつかの団体が一緒になって協力しあいながら活動**することもよいと思う。（食生活改善推進委員協議会、母子保健推進員協議会）

【変える】

- DXの活用
- ナッジ理論の活用

○ **壮年期**の方が保健指導を受けやすいように**オンライン保健指導**を導入した。
 ○ **ナッジ理論**（本人が無意識により選択をするよう誘導する）・知らずに買って食べたら健康につながる、思わず歩きたくなるような**環境やしかけ**をつくる。